世界へ
ーここに生きるー

Vol.13
in Canada

アンディ九十九
(本名：九十九 洋一)
Andy Tsukumo（Yoichi Tsukumo）

バンクーバービジネス懇話会事務局長
公益法人 日加ヘルスケア協会理事
日系シニア団体 桜楓会副会長
カナダ明治大学校友会会長

1941年　東京都生まれ
1960年　東京都立荻窪高校卒業
1965年　明治大学政治経済学部卒業
　　(株) 日本信販入社　広報宣伝業務(社内広報誌編集部)
1967年　日本信販海外トラベルサービス勤務
　　Jet Air Service Ltd (社名改称)
1974年　東京旅行(株) 海外旅行部次長
1982年　カナダ移住
　　カナダ旅行会社Cantour International Ltd 入社
　　同社 General Manager (総支配人) を務める
1984年　カナダ旅行会社Canadian Odysseys Inc 入社
　　Vancouver Branch GM (バンクーバー支店長)
1989年　新設日系旅行会社Nippon Travel Agency Canada Ltd 入社
　　Director (取締役営業部長)
1995年　同社副社長
1997年　同社代表取締役社長
2000年　同社退職
2003年　日系進出企業団体／バンクーバービジネス懇話会事務局長
　　公益法人　日加ヘルスケア協会理事
　　日系シニア団体　桜楓会副会長
　　カナダ明治大学校友会会長

明大生時代の自分（1963年）

バンクーバーで歩む第二の人生
ーすべてのルーツは明大にー

カナダのバンクーバーに住むようになって早いもので30年経ちました。

日本の大手旅行会社のカナダ法人経営に超多忙な10年間を終えてから、日本からカナダへ進出した企業の団体「バンクーバービジネス懇話会」の事務局長に就任してこちらも10年経ちました。

地域社会に貢献する意味もあってボランティア活動も行っています。「日加ヘルスケア協会」は当地バンクーバーに日本語で患者に接することの出来る家庭医が僅少であることから、日本人社会の健康を守るため、日本語で医療、健康相談セミナーを開催する公益法人です。日本とカナダの医療健康保険制度の違いなど、カナダ在住の日本人が知っておかね

「台湾歯の治療ツアー」が話題となり、テレビのワイドショーに出演（1975年）

ばならない情報を提供するため、田中朝絵医師を中心に活動しています。

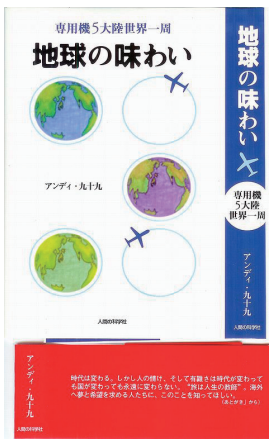
「桜楓会」は日本人シニアの親睦団体で200名弱の会員を抱えるBC州最大の日本人団体です。カナダには昔、退職移住者に永住権を与える法律が存在したため、約30年前に日本政府が定年退職者の海外移住を奨励するシルバーコロンビア計画を発表したのと相俟って、日本からシニアの人たちがカナダへ移り住むようになりました。そこでお互いに情報交換をしながらカナダ生活を楽しもうということでこの桜楓会が誕生したのです。旅行会、親睦食事会、勉強会、新年会など多くのイベントを計画し実施しています。

106歳で7回目の世界一周を行いギネス高齢者記録保持者となった医学・文学博士、昇地三郎先生がバンクーバーに来られた2012年7月には、特別講演会実行委員会を組織して長寿の秘訣と幼児障害児教育についてお話をお聞きしました。このように、忙しい日々をバンクーバーで過ごしています。しかし…そもそも何故私が今カナダに住んでいるのでしょうか？考えてみると、そのルーツは明治大学でのクラブ活動の影響であったと言えます。

東京生まれ東京育ちの私は、大学時代は真面目な学生ではありませんでした。授業にはあまり出ず、サークル活動に傾注していました。English Press Society（略EPS）という名称で、英語学内新聞〝The Meiji Bulletin〟を年4回発行するサークルでした。記事の取材・編集・発行の過程を通じて、政治・社会・国際問題など広範な思考形成に役立ったと同時に、英語で記事を書くために人並みの英語力を培うのにも役立ったとのではと思います。

卒業して入社したのが日本信販という会社ですが、この会社への入社を勧めてくれたのがサークルの1年先輩でこの会社の企画室に勤務していた前川さんという方でした。入社して最初に配属されたのが、日本信販顧客60万人に配布する会社の宣伝新聞の発行部門でした。此処への配属はThe Meiji Bulletinの編集発行経験が影響したのだと思います。しかし2年も経たないうちに系列子会社である海外旅行代理店へ異動するよう

カナダ法人日本旅行カナダ社設立10周年記念パーティー。左が筆者（1999年）



著書「地球の味わい」。約6000部発行され日本各地の書店で販売された（2001年）

突如社命（?）が来ました。英語の出来る社員を配属して欲しいと当時の常務が本社に依頼したとのことでした。

ここで、私の人生の基本部分は決まってしまいました。自分はその日から今日まで、海外旅行畑で人生を過ごすことになったのです。

海外旅行業務は自分にとって楽しく遣り甲斐のある分野で、これぞ天職だ！と感じつつ今日に至っております。入社した当時は観光目的での旅券発給は認められていなかったばかりか、業務渡航でも外貨持ち出しの金額制限があり、海外旅行専門の会社に勤務して海外出張が業務だと言うと、みんなから羨望の目で見られたものです。

その後、別の旅行会社へ転職しましたが、忘れられないのが「台湾で歯の治療ツアー」を企画し成功したことです。当時、日本の歯科医師会は歯科医療報酬と健康保険を管轄する厚生省と鋭く対立し、一般国民は歯の治療をしてもらうのにとても苦労していましたが、お隣の国台湾では日本の歯科大学を卒業した先生が安価で親切に治療をしてくれることを知り、このツアーを企画したのです。数多くのマスコミに取り上げられ、テレビにも出演しました。台湾観光のイメージを良いものに変えてくれたということで、台湾観光局から感謝状ももらいました。

そして40歳となった年に、人生転換の機会は今だと考えて妻と相談の上、外国で第二の人生を過ごす決意をしたのです。それまでの15年間で約250回もあちこちの国へ渡航訪問していたので、何処の国へ行ったら良いのか比較評価する力は自分なりに持っていたつもりです。迷わず世界一良い国カナダの、そしてその国で一番人気の高い町バンクーバーを行き先に選びました。

カナダ人経営の旅行会社に勤務後、暫くしてから日本の大手N旅行社が現地法人を設立するので中心人物として経営に協力して欲しいとのお誘いを受け、この会社に11年間勤務することとなりました。日本からの観光客を受け入れるインバウンド業務がメインでしたが、外地へ出て行くお客を扱うアウトバウンド部門も後

世界へ
ーここに生きるー
Vol.13
in Canada

バンクーバー新報
新報リポート
105歳で世界一周に挑戦
昇地三郎氏
特別講演会 『人生に余りはない』
7月18日、ダウンタウンのコースト・コールハーバーホテルで、昇地三郎氏（医学・文学博士）による特別講演会が開かれた。昇地氏は現在105歳。99歳から毎年世界一周講演旅行を開始し、7回目の今年は機中で106歳誕生日を迎え、ギネスの高齢者世界一周記録に挑戦中。国際心理学会参加のため、南アフリカ、ケープタウンへ向かう旅の途中、バンクーバーに寄航した。
在バンクーバー日本国総領事伊藤秀樹氏と田中朝絵医師をゲストに、会場いっぱいの70人以上の参加者が長寿健康の秘訣、幼児・障害者教育など、昇地氏の元気で楽しいトークに聞き入った。

「高齢者世界一周ギネス記録・昇地三郎博士　バンクーバー特別講演会」。左が筆者（2012年）

1996年のツアーオブザイヤーグランプリ賞に輝いた「専用機世界一周5大陸の旅」。前列左端が筆者

から開設しました。トロントとバンフの支店も順次開設し、社員は一時100名近く働いていたと思います。

インバウンドの営業感覚とアウトバウンドの手配感覚をコンバインさせた斬新な旅行企画を創作しました。カナダの航空機を1カ月間借り切って日本からの富裕観光客を世界一周に連れて行く壮大なアイデアを日本へ提案しました。1996年のことです。「30日間400万円世界一周チャーター機旅行」は、画期的な海外旅行の出現だと日本の新聞で大々的に取り上げられ、発売から48時間で全88席が売り切れとなる大ヒット旅行となりました。日本の海外旅行の頂点と言える〝ツアーオブザイヤー〟のグランプリ賞に選ばれ、文字通り日本一の旅行商品となったのです。

また〝地球の味わい〟という本を出版しました。この本の趣旨は「日本の常識は世界の常識ではありません。日本的観察眼で外国を評価判断すると失敗します。旅は人生の教師です」というものですが、この中に例のチャーター機世界一周の裏話を書きました。出版にあたっては、明大のゼミナールの恩師、故吉田忠雄先生（後の政経学部長、名誉教授）に出版社をご紹介いただき、先生には感謝しております。

という訳で、最初の入社も、一生の仕事も、カナダへの移住も、自筆本の出版も、そして現在の自分が在るのも、明治大学のお陰と感じております。

カナダ明治大学校友会

明大卒業生7名で1999年に「バンクーバー駿河会」を設立しました。懇親会、情報交換会などを10数年開催してきましたが、当2013年初めに在バンクーバー日本国総領事として明治大学出身の岡田誠司氏（寧子夫人も明大ご出身）が着任されてから活発な活動を行っています。現在は「カナダ明治大学校友会」と改名し、カナダ国内の明大卒業生との連絡や提携を行っています。

連絡先：meiji.vancouver@gmail.com